

報告——2015年周作クラブ新年会

飲んで食べて歌って騒いで賑やかに

老いも若きも一つになって楽しく

平成27年(2015)2月1日(日) 曜日)、東京一ツ橋の「如水会館」で恒例の周作クラブ新年会が開かれた。晴天ではあったが、北風が冷い寒い日であった。とはいえ会場内はぼかぼかと暖かく、笑顔があふれ、なごやかな雰囲気満ちていた。出席者約60名、全員着席である。

定刻を10分ほど過ぎた12時40分、亀岡園子さんの司会で開会となった。まずは、加賀乙彦会長の挨拶。長めのスピーチが恒例だが、何と今年は、加藤宗哉幹事の「できるだけ短く」というお願いがきいたのか、あつという間に終わってしまった。「文章も書けば長くなる。話すという事は文章を書くことと同じで、やはり長くなる。よって今日は話さない」と。

にこやかに壇を下りた会長に、皆で拍手。早く咽喉をうるおしたいし、ご馳走も食べたい。パーティー料理を楽しみに、朝食を食べずに来た人もいるにちがいない。ともあれ乾杯。発声は磯見辰典会員。「遠藤さんを偲ぶなら献杯というべきだろうけど、まずは乾杯」ということで開宴となった。なお、磯見さんは、加賀会長と同じ上智大学

名誉教授だが、何と名古屋の陸軍幼年学校のときからの同級生。

料理は、オードブルとサンドイッチ、カレーライス、スパゲッティナポリタンとケッチャップ味のエビピラフ、ソース焼きそば、日本そば、鶏のから揚げ。ナポリタンとエビピラフが最後



歌う林良子さん

に残った。飲み物はビールにワインにウーロン茶、日本酒、焼酎。

飲んで食べて一段落したところで、黒井千次顧問のあいさつ。「毎年、加賀会長が、訳の判らないことを長々と話すので、自分はそれを判りやすくまとめて皆さんに伝える、ということをしてきた。ところが今年には会長が何も話さないの自分も話すことがない」とユーモラスに述べた。そこで会員で声楽家の宮野麻紀さんが花束を贈呈。「えっ何?」という黒井顧問に、文化功労者のお祝いです、もう一つプレゼントがあります、と加藤幹事。黒井顧問を歌で祝福という趣向。歌うのは旧劇団「樹座」の座員であった林良子さん。ピアノは水島菜由さん。曲目は歌劇「椿姫」の中の「乾杯の歌」と唱歌の「早春賦」、澄んだ歌声が会場をわたり、黒井顧問も満面の笑み。ついで、新入会員の紹介。五人が壇上に上がって「遠藤周作と自分」について述べた。三年前、五十代の後半になって『沈黙』に出合い、以後ほとんどの遠藤作品を

読破したという人や、古い「樹座」の座員で「周作クラブ」の存在を最近になって知り、入会したという人など、皆で拍手。
会も終わりに近づき、福引き大会。景品は遠藤先生の各種文庫本や加賀会長と黒井顧問の著書。また遠藤グッズにクッキー、キャンデーなど。会費と



旧樹座の座員たちによる「樹座讃歌」合唱

引き換えに引いたくじ番号によって、何が当たるか、あるいはハズレか。

そのあとは、旧樹座の座員(三幹事以下の10名ほど)を中心に「樹座讃歌」(モンパリの替え歌)を大合唱。賑やかなうちに午後3時となり、宮辺幹事の七月の「殺陣クラブ」公演の案内や、加藤幹事の行事案内などもあって、余韻を残しつつ、閉会となった。(記/高橋千劍破) 写真/田村百合子